

第 28 回 口腔顔面神経機能学会総会・学術大会

プログラム・抄録集

2025 年 3 月 1 日（土）

会 場

大阪大学中之島センター 佐治敬三メモリアルホール

大会長 田中 晋

大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座

第28回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会に参加される皆様へ

1. 参加方法について

現地開催のため、当日現地にて受付してください。
学会参加費:2,000円(当日受付、現金のみ)

2. 役員の先生方へ

3月1日(土)11:30 より役員理事会を開催いたします。
7階会議室(セミナー室 7C)にお集まりください。昼食をご用意いたします。

3. 座長の先生方へ

当日受付はいたしません。
担当セッション開始10分前までに「次座長席」にご着席ください。
また、予定時間通りに発表が進行しますようご協力をお願いいたします。

4. 演者の先生方へ

①発表データと発表方法について

一般口演の発表時間は6分、その後の質疑応答は2分です(発表時間残り1分でベル)。
発表データは Microsoft Power Point で作成いただき、USBメモリーに保存してご持参ください。スライドは、Power Point Windows 版で行います。
Macintosh を使用される場合はご自身のPCと変換アダプタをお持ちください。

②当日の受付について

演者受付は、9:00 より会場前の受付にて行います。発表するセッション開始の30分前までにPC受付にデータをご提出ください。

③後抄録について

演題名・所属・演者(発表者に○)・1,200～1,500字程度の後抄録をWord ファイルで作成し、2025年3月14日までに大会事務局へメールでお送りください。なお、本文以外に4、5枚程度の写真・図表を加えていただいてもかまいません(カラー不可)。

5. アドバンスセミナーを受講される先生方へ

第6回アドバンスセミナーを受講されますと口唇・舌感覚異常判定認定医の申請・更新に必要な単位の取得が可能です(10単位)。

* 終了後に会場にて受講証書をお渡ししますので、お受け取りください。

6. 会員懇親会に参加される先生方へ

18時30分よりサロン・アゴラ(中之島センター9階)にて懇親会を行います。
会費は受付にてお支払いください(会費:8000円、現金のみ)。

7. 交通案内

会場:大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53 (京阪中之島駅より徒歩5分)

* タクシーでお越しの際は、近隣施設や建物に中之島センタービル等類似した名称の建物がありますので、「大阪市立科学館北側の『大阪大学中之島センター』」とお伝えください。



8. 口唇・舌感覚異常判定認定医試験を受験される先生方へ

第15回口唇・舌感覚異常判定認定医試験(筆記試験及び面接)は、
3月2日(日)に大阪大学大学院歯学研究科講義棟(D棟)にて行います。
試験の詳細についてはHPをご確認ください。

申込先: 口腔顔面神経機能学会事務局

大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座内

関 壮樹 E-mail: tei.souju@gmail.com

9. 精密触覚機能検査研修会を受講される先生方へ

2024年度第13回精密触覚機能検査研修会は、
3月2日(日)10時より大阪大学大学院歯学研究科 F棟5階 弓倉記念ホールで行います
(9時半受付開始)。詳細は申込者にお知らせしていますので、ご確認ください。

申込先: 精密触覚機能検査研修協議会HP

10. 大会事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座内

準備委員長 磯村恵美子

TEL: 06-6879-2936

E-mail: isomura.emiko.dent@osaka-u.ac.jp

第28回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会 日程表

9:30	9 : 30～ 9 : 35 開会の辞
10:00	9 : 40～10 : 28 一般演題 I 座長：石井庄一郎（近畿中央病院）
10:30	10 : 35～11 : 15 アドバンスセミナー 座長：野添悦郎（青雲会病院） 「下顎智歯抜歯における下歯槽神経障害の現状」 演者：石濱孝二（大阪けいさつ病院）
11:00	11 : 30～12 : 30 昼休憩（理事会） * 理事の先生方は7階会議室（セミナー室 7C）にお集まりください
11:30	12 : 50～ 13 : 30 総会
13:00	13 : 35～14 : 35 特別講演 座長：田中晋（大阪大学） 「睡眠医学と歯科の接点」 演者：加藤隆史（大阪大学）
13:30	14 : 40～15 : 10 学会賞受賞講演 座長：松村達志（和歌山県立医科大学）
14:00	15 : 15～15 : 55 特別企画 ～口腔顔面神経機能学会のあゆみと今後の展望～ 座長：飯田征二（岡山大学） 「口唇から口腔顔面への沿革と展望」 演者：高田訓（奥羽大学） 「口唇・舌感覚異常プロトコールの『これまで』と『これから』」 演者：小林明子（東京科学大学）
14:30	16 : 10～16 : 58 一般演題 II 座長：大山順子（九州大学）
15:00	17 : 05～18 : 01 一般演題 III 座長：高岡一樹（滋賀医科大学）
15:30	18 : 05～ 18 : 10 閉会の辞
16:00	18 : 30～ 懇親会（9F サロン・アゴラ）
16:30	
17:00	
17:30	
18:00	
18:30	

プログラム

9:30 ～ 9:35 開会の辞

9:40 ～ 10:28 一般演題 I

座長 石井 庄一郎（公立学校共済組合 近畿中央病院 歯科口腔外科）

1-1 下顎頭骨折における観血的整復固定術後の顔面神経麻痺に対する評価

独立行政法人労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院 歯科口腔外科 蓑原雅人、他

1-2 当科における過去5年間の下顎埋伏智歯抜歯術後に生じたオトガイ神経知覚異常に関する検討

大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座 清水克俊、他

1-3 当科神経外来における三叉神経障害の臨床統計学的検討

和歌山県立医科大学医学部 歯科口腔外科学講座 鈴木滋、他

1-4 当科を受診した歯科治療後に発生した神経障害症例の臨床的検討

福岡歯科大学医科歯科総合病院 口腔外科 廣田千太郎、他

1-5 当科における外傷性三叉神経障害性疼痛に対する薬物療法効果の検討

東北大学病態マネジメント歯学講座 顎顔面口腔再建外科学分野 江副祐史、他

1-6 舌切除・前腕皮弁再建患者における術前・術後の舌知覚変化と客観的発語明瞭度変化との関連について

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔腫瘍外科学講座 松永和秀、他

10:35 ～ 11:15 アドバンスセミナー

座長 野添 悦郎（社会医療法人青雲会 青雲会病院 歯科口腔外科）

下顎智歯抜歯における下歯槽神経障害の現状

石濱 孝二（大阪けいさつ病院 歯科口腔外科）

12:50 ～ 13:30 総会

13:35 ～ 14:35 特別講演

座長 田中 晋（大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座）

睡眠医学と歯科の接点

加藤 隆史（大阪大学大学院歯学研究科 口腔生理学講座 教授）

14:40 ～ 15:10 学会賞受賞講演

座長 松村 達志（和歌山県立医科大学 歯科口腔外科学講座）

下顎埋伏智歯抜歯における精神性発汗量に関する検討

奥羽大学大学院歯学研究科 口腔病態学分野顎口腔外科学専攻 渡邊 輝、他

東京歯科大学急性期神経機能修復外来における神経障害性疼痛症例の臨床的検討

東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座 小原 身知子、他

15:15 ～ 15:55 特別企画

～ 口腔顔面神経機能学会のあゆみと今後の展望 ～

座長 飯田 征二（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学分野）

口唇から口腔顔面への沿革と展望

高田 訓（奥羽大学歯学部 口腔外科学講座）

口唇・舌感覚異常プロトコルの『これまで』と『これから』

小林 明子（東京科学大学 医歯薬総合研究科 顎顔面外科学分野）

16:10 ～ 16:58 一般演題Ⅱ

座長 大山 順子（九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 口腔顎顔面外科学分野）

2-1 下歯槽神経障害の病態を考慮したインプラント撤去法

東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座

村山雅人、他

2-2 下顎枝矢状分割術中の下歯槽神経断裂による下唇・オトガイ部の知覚異常の経時的変化について

東北大学大学院歯学研究科 病態マネジメント歯学講座 顎顔面口腔腫瘍外科学分野

梶田倫功、他

2-3 下歯槽神経を切断・再吻合した5例

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野

右田裕乃、他

2-4 ナーブブリッジ®、リナーブ®使用症例の術後評価の比較検討

東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座

有泉高晴、他

2-5 舌神経損傷における欠損距離は神経縫合術の予後に影響を受けるのか

東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座

小原身知子、他

2-6 歯科心身症に関連した口唇症状の5例

北海道医療大学病院「口腔内科相談外来」

宇津宮雅史、他

17:05 ～ 18:01 一般演題Ⅲ

座長 高岡 一樹（滋賀医科大学医学部 歯科口腔外科学講座）

3-1 重複良性腫瘍（耳下腺多形腺腫と舌神経鞘腫）を同時に切除した1例

公立学校共済組合 近畿中央病院 歯科口腔外科

薄木崇介、他

3-2 Numb chin症候群を初発症状としたB細胞性ホジキンリンパ腫の1例

大阪けいさつ病院 歯科口腔外科

有川千尋、他

3-3 舌下神経麻痺および嚥下障害を契機に術後30年経過した甲状腺癌後発転移の診断に至った1例

九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 口腔顎顔面外科学分野

久保慧乃葉、他

3-4 舌の局所味覚と全口腔法による味覚閾値との比較

奥羽大学 歯学部口腔外科学講座

伊澤輝、他

3-5 濾紙ディスク法にて味覚検査を行った患者の臨床統計

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野

熊谷順也、他

3-6 電気味覚検査（TR-06）とろ紙ディスク法(テーストディスク®)による検査結果の比較

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野

小林明子、他

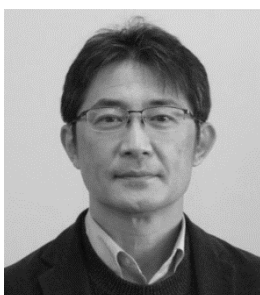
3-7 マウス酸味細胞のGABAの役割について

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学分野

三上彩可、他

18:05 ～ 18:10 閉会の辞

18:30 ～ 20:00 懇親会



睡眠医学と歯科の接点

大阪大学大学院歯学研究科 口腔生理学講座 教授

加藤 隆史（かとう たかふみ）

「眠る」という行動は人生の約3分の1を占める重要な生活行動である。しかし、現代の「24時間社会」において、睡眠に問題を抱える人が増加している。これらは睡眠関連疾患のみならず、不適切な生活習慣や環境が大きく関与する。歯科領域では、睡眠に関連する臨床課題として、閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSAS）や睡眠時ブラキシズム（SB）に加え、口腔顔面痛などが注目されている。OSASは上気道の閉塞が主因で、日中の眠気や高血圧リスクを伴い、口腔内装置が有効とされている。一方、SBは口腔顔面痛や歯の咬耗と関連し、複数の病態因子が関与する。慢性口腔顔面痛の疼痛管理においては睡眠の質の低下は無視できない要素である。本セミナーでは、睡眠のしくみと重要性を踏まえ、歯科医療が関与できる睡眠関連疾患について概説し、診療と研究の視点を共有する。

<略歴>

1994年	大阪大学歯学部卒業
1998年	同 大学大学院歯学研究科修了
1998-2003年	モントリオールサクリカ病院睡眠生体リズム研究所 モントリオール大学歯学部・同大学神経科学研究所 博士研究員および研究助手
2003年 4月	松本歯科大学 講師
2005年 9月	同 准教授
2008年 1月	松本歯科大学病院歯ぎしり睡眠時無呼吸症外来 主任（兼務）
2008年 9月	大阪大学大学院歯学研究科 口腔解剖学第二教室 講師
2016年11月	同 口腔生理学講座 教授
2022年 4月	同 副研究科長 （兼務）大阪大学医学部附属病院睡眠医療センター 大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子制御機構研究センター

<学会活動>

日本睡眠学会（評議員・歯科専門医）	日本臨床睡眠医学会（理事）
日本顎口腔機能学会（常任理事）	歯科基礎医学会（常任理事）
日本生理学会（評議員）	JADR（理事）
IADR（Neuroscience group President, 2009）	日本補綴歯科学会
World Sleep Society	Journal of Oral & Facial Pain and Headache (Associate editor)
Sleep Research Society	Journal of Oral Rehabilitation,
Sleep Medicine Research,	Dental and Medical Problems（Editorial board）

<受賞>

CADR Post-doctoral Research Award（2001）
IADR Distinguished Scientist Award（Young Investigator Award）（2005）
大阪大学歯学部弓倉学術奨励賞（2014）
歯科基礎医学会ライオン賞（2022）

特別企画

～ 口腔顔面神経機能学会のあゆみと今後の展望 ～



口唇から口腔顔面への沿革と展望

口腔顔面神経機能学会理事長／奥羽大学歯学部口腔外科学講座 教授

高田 訓（たかだ さとし）

第28回口腔顔面神経機能学会の学術大会におきまして、大会長の田中晋先生より、特別企画としてお話させて頂く機会を頂き心より感謝申し上げます。

口唇麻痺研究会の会報VOL 1 には「口唇部感覚異常を診断して神経障害の対応と予後判断ができるようになること、感覚異常を客観的に評価して医療紛争の場では中立的、客観的、定量的に意見できるようになること」と書かれています。これが、本学会の前身である第1回口唇麻痺研究会が大阪大学で開催されたときに参加者が目指した目標でした。その1997年2月22日（土）は晴れていましたが、凄く寒い日だったと記憶しています。

あれから28年を経て、これまでに412題の演題発表がありました。その時々話題がタイムリーに反映されている抄録集や事後抄録を検索し、皆様と本学会の歴史を振り返るとともに、これからの目標を考えたいと思います。

<略歴>

1989年 奥羽大学大学院歯学研究科 入学
1992年 大阪大学歯学部 出向
1993年 奥羽大学大学院歯学研究科 修了
1998年 奥羽大学歯学部口腔外科学第2講座 講師
2002年 奥羽大学歯学部口腔外科学講座 助教授
2007年 同 講座 教授
2012年 同 講座（口腔外科学分野・歯科麻酔学分野）主任教授

<学会活動>

口腔顔面神経機能学会（理事長／口唇・舌感覚異常判定認定医）
日本口腔外科学会（専門医・指導医）
日本口腔科学会（認定医・指導医）
日本口蓋裂学会（理事・監事・認定師（口腔外科分野））
日本歯科心身医学会（理事・認定医）



口唇・舌感覚異常プロトコルの 『これまで』と『これから』

東京科学大学 医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野

小林 明子（こばやし あきこ）

口腔顎顔面領域の感覚異常における客観的評価の推進と共通化を目指し2001年鶴見大学浅田洸一委員長を中心に「口腔領域感覚異常診査」いわゆる旧プロトコルが作成されました。その後、学会におけるブラッシュアップを経て2007年現在の「口唇・舌感覚異常プロトコル」へと改訂されました。

今でこそSW知覚テスターを始めとする感覚検査機器は耳慣れたものとなっていますが当時は感覚検査を行う施設が少なく、検査機器もそれぞれで、そこにニューロメーターが登場すると瞬く間に拡がりその論文も多くみられるようになりました。

こうした流れの中、どのような根拠で現在のプロトコルが作成されたのかを長く携わった者としてひもといってみました。

また精密触覚機能検査が保険収載された現在におけるプロトコルの意義と、感染症蔓延後の感覚検査の方向性などについての若干の私見を「これから」という形で述べさせていただきます。

<略歴>

1987年 東北大学歯学部卒業
東京医科歯科大学歯学部 口腔外科学第一講座 専攻生
1989年 同 医員
2005年 同 非常勤講師
2024年 東京科学大学 非常勤講師（大学名称変更）

<学会活動>

口腔顔面神経機能学会（認定医・理事）
日本顎関節学会（専門医）
日本口腔外科学会（専門医・指導医）



下顎智歯抜歯における下歯槽神経障害 の現状

社会医療法人大阪国際メディカル＆サイエンスセンター

大阪けいさつ病院 歯科口腔外科 部長

石濱 孝二 (いしはま こうじ)

下顎智歯抜歯は口腔外科の日常臨床で行う頻度の高い術式である。本学会の前身である口唇麻痺研究会は1997年に発足しているが、下顎智歯抜歯による偶発症として、下歯槽神経損傷で生じる下唇・オトガイ部知覚異常は遭遇する機会は少なくなかった。歯科用CTの普及もあるが、このような研究会での知見の集積や手術手技の研鑽などにより、その発生頻度は随分低くなった印象がある。本セミナーでは下顎智歯抜歯における下歯槽神経障害を防ぐこれまでの取り組みについて、また、これからの課題について述べようと思う。

<略歴>

1995年 3月 北海道大学歯学部卒業
1995年 4月 大阪大学歯学部 第一口腔外科入局
2000年 4月 大阪警察病院 歯科口腔外科 医員（～2003年 8月）
2003年 10月 University of Southern California 留学
2005年 9月 University of Wuerzburg 留学
2006年 4月 大阪大学歯学部附属病院 第一口腔外科
2008年 4月 松本歯科大学 顎顔面口腔外科学講座
2010年 7月 大阪大学歯学部附属病院 第一口腔外科
2014年 4月 大阪けいさつ病院 歯科口腔外科 部長

<学会活動>

口腔顔面神経機能学会 口唇・舌感覚異常判定認定医 理事
日本口腔外科学会 専門医 指導医 代議員
日本顎変形症学会 指導医
日本口腔科学会 指導医
日本口腔感染症学会 評議員
日本睡眠歯科学会 評議員

* 終了後に会場にて受講証書をお渡しいたします。認定医申請・更新に必要な10単位が取得可能です。

1. 下顎埋伏智歯抜歯における精神性発汗量の変化に関する検討

○ 渡邊輝（わたなべ ひかる）¹、川原一郎²、倉賀野徹¹、宇根岡大典¹、澤弘平^{1,2}、西祐也²、神林直大³、高橋文太郎²、臼田真浩⁴、小嶋忠之²、御代田駿²、金秀樹^{1,2}、高田訓^{1,2}

- 1) 奥羽大学大学院歯学研究科 口腔病態学分野 顎口腔外科学専攻
- 2) 奥羽大学歯学部 口腔外科学講座 口腔外科学分野
- 3) 奥羽大学歯学部 口腔機能分子生物学講座 口腔生化学分野
- 4) 奥羽大学歯学部 放射線診断学講座

精神性発汗は物理的刺激や精神的緊張により手掌や足底から瞬時に発汗する。歯科診療は患者にとって物理的・精神的にストレスを伴うが、歯科診療時の発汗量変化に関する報告は少ない。今回われわれは下顎埋伏智歯抜歯時の精神性発汗量の変化について検討したので報告する。

2. 東京歯科大学急性期神経機能修復外来における神経障害性疼痛症例の臨床的検討

○ 小原身知子（こはら みちこ）¹、西山明宏²、山本裕義²、田中斉¹、加藤禎彬²、山崎梓¹、有泉高晴¹、星野照秀²、村山雅人¹、片倉朗²

- 1) 東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座
- 2) 東京歯科大学 口腔病態外科学講座

東京歯科大学水道橋病院急性期神経機能修復外来における末梢性三叉神経障害症例のうち神経障害性疼痛を認めた症例の実態を把握するために2021年4月から2024年3月に受診した症例について臨床的検討を行ったのでその概要を報告する。

【一般演題】

1-1 下顎頭骨折における観血的整復固定術後の顔面神経麻痺に対する評価

○簗原雅人 (みのらは まさと)¹、栗本聖之²、小橋寛薫²、薄木崇介³、石田杏奈¹、磯和真帆¹、吉岡秀郎¹

- 1) 独立行政法人労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院 歯科口腔外科
- 2) 大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座
- 3) 公立学校共済組合 近畿中央病院 歯科口腔外科

下顎頭骨折に対する観血的整復固定術後の顔面神経麻痺は、患者のQOLを著しく下げる可能性のある術後合併症である。今回、当院で実施された下顎頭骨折に対する観血的整復固定術に関して、顔面神経麻痺のリスク因子を解析検討した。

1-2 当科における過去5年間の下顎埋伏智歯抜歯術後に生じたオトガイ神経知覚異常に関する検討

○清水克俊 (しみず かつとし)¹、川村晃平¹、小山愛結¹、喜多涼音¹、梶原大誠¹、今泉洋祐¹、小林拓弘¹、朝田真深¹、熊谷七恵¹、宮本浩樹²、児玉晨吾¹、安田卓司¹、柏木美樹¹、原田計真¹、関壮樹¹、磯村恵美子¹、横田祐介¹、田中晋¹

- 1) 大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座
- 2) 関西ろうさい病院歯科口腔外科

過去5年間に行った下顎埋伏智歯抜歯8154件中、術後にオトガイ神経知覚異常を認め、経過観察を行った症例は59件であった。統計学的解析の結果、智歯埋伏分類のみが知覚異常の治癒期間に有意な影響を与えていた。

1-3 当科神経外来における三叉神経障害の臨床統計学的検討

○鈴木滋 (すずき しげる)、家田晋輔、田坂ゆかり、溝端直樹、武田侑也、上田真道、畑美緒、大林健矢、金尾光、長尾茉柚、乾真衣、大友奈都子、島陽菜、松村達志

和歌山県立医科大学医学部 歯科口腔外科学講座

当科では三叉神経障害の専門外来を、神経外来として週に半日診療している。2020年4月から2024年12月までに、当院神経外来を受診した、のべ146人の下歯槽神経または舌神経障害の患者における臨床統計を報告する。

1-4 当科を受診した歯科治療後に発生した神経障害症例の臨床的検討

○廣田千太郎 (ひろた せんたろう)、秋本琢磨、有田英生、横尾嘉宣、宮原慧、勝俣由里、佐々木三奈、吉住潤子、橋本憲一郎、平木昭光、池邊哲郎

福岡歯科大学医科歯科総合病院 口腔外科

オトガイ神経、下歯槽神経、舌神経の知覚障害は、浸潤麻酔や抜歯、インプラント手術、歯周外科手術などの日常的な歯科診療において引き起こされる可能性がある。福岡市歯科医師会では開業歯科医師が神経障害を発生させた際に、規定の紹介状を使用して市内の3大学病院に紹介を行い、客観的な評価と治療を依頼する麻痺事案フローチャートを作成している。今回、当科を紹介受診した麻痺事案症例について臨床的検討を行ったので報告する。

1-5 当科における外傷性三叉神経障害性疼痛に対する薬物療法効果の検討

○江副祐史（えぞえ ゆうし）¹、高山慎騎²、野上晋之介¹、千葉雅俊³、山内健介¹

- 1) 東北大学病態マネジメント歯学講座 顎顔面口腔再建外科学分野
- 2) 東北大学病院 歯科顎口腔外科
- 3) 山形県立中央病院 歯科口腔外科

神経障害性疼痛に薬物療法が行われることが多いが、薬物の適否判断に難渋しやすい。今回われわれは、2020年1月から2024年12月に当科受診の外傷後三叉神経障害性疼痛に対する薬物療法の効果について検討を行った。

1-6 舌切除・前腕皮弁再建患者における術前・術後の舌知覚変化と客観的発語明瞭度変化との関連について

○松永和秀（まつなが かずひで）¹、紀之定紘子¹、鈴木真央¹、森田祥弘¹、竹下彰範¹、小山史穂子²、杉山千尋³、松宮由香¹、加島佳奈¹、小笠瑛美子¹、鶴澤成一¹

- 1) 大阪大学大学院 歯学研究科 顎口腔腫瘍外科学講座
- 2) 大阪国際がんセンター 疫学統計部
- 3) 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学講座

舌切除・前腕皮弁再建手術を施行した舌がん患者12例を対象に、術前・術後の電気刺激による舌知覚と音声認識ソフトウェアによる発語明瞭度を評価し、舌知覚変化と発語明瞭度変化との関連について検討したので報告する。

2-1 下歯槽神経障害の病態を考慮したインプラント撤去法

○村山雅人（むらやま まさと）^{1,2}、小原身知子¹、有泉高晴¹、加藤禎彬³、山本裕義³、西村光正³、渡邊章¹、片倉朗³

- 1) 東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座
- 2) 医療法人社団 ムラヤマ歯科
- 3) 東京歯科大学 口腔病態外科学講座

下歯槽神経障害を与えたインプラントは安易に撤去するべきではないと考える。撤去後の治癒過程で外傷性神経腫を形成しアロデニアの原因となるからである。演者らは障害程度を分類しそれぞれの対応を提唱している。今回はインプラント撤去を段階的におこなう外傷性神経腫を予防できる方法を考案し実施したので報告する。

2-2 下顎枝矢状分割術中の下歯槽神経断裂による下唇・オトガイ部の知覚異常の経時的変化について

○梶田倫功（かじた ともなり）¹、野上晋之介²、菅井優生³、鈴木飛佳理⁴、杉浦剛¹、山内健介²

- 1) 東北大学大学院歯学研究科 病態マネジメント歯学講座 顎顔面口腔腫瘍外科学分野
- 2) 東北大学大学院歯学研究科 病態マネジメント歯学講座 顎顔面口腔再建外科学分野
- 3) 東北大学病院 歯科顎口腔外科
- 4) 気仙沼市立病院 歯科口腔外科

下顎枝矢状分割術(SSRO)は、顎矯正手術において最も一般的な外科手術で確立された術式である。SSROの術中合併症の1つに下歯槽神経の断裂が挙げられ、術後に長期的な知覚異常をもたらすとされている。今回われわれは、術中に神経断裂を認めた症例の術後における下唇・オトガイ部の知覚回復について臨床的検討を行った。

2-3 下歯槽神経を切断・再吻合した5例

○右田裕乃（みぎた ひろの）¹、吉村卓也¹、金竹春華¹、靄田素子¹、高見芳野¹、大浦教仁¹、芹澤慎生¹、下拾石雄大¹、多田亮平¹、平野憂花¹、上栗裕平¹、中園賢太¹、木村菜美子¹、手塚征宏¹、鈴木甫¹、岐部俊郎¹、石田喬之¹、大河内孝子²、中村康典²、石畑清秀¹、野添悦郎³、西條英人¹

- 1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野
- 2) 独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター 歯科口腔外科
- 3) 社会医療法人青雲会 青雲会病院 歯科口腔外科

口腔外科手術では、病変へのアプローチや下顎骨切除のため、下歯槽神経の切断を要する症例は多く、下歯槽神経麻痺によるQOL低下を避けられない。今回我々は、下歯槽神経切断・再吻合を行った5例を経験したので報告する。

2-4 ナーブブリッジ®、リナーブ®使用症例の術後評価の比較検討

○有泉高晴（ありいずみ たかはる）¹、西山明宏²、西村光正²、小原身知子¹、岩崎亮²、杉浦慧²、田中斉¹、山本裕義²、加藤禎彬²、山崎梓^{1,3}、星野照秀²、片倉朗²、渡邊章¹

- 1) 東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座
- 2) 東京歯科大学 口腔病態外科学講座
- 3) 帝京大学ちば総合医療センター 歯科口腔外科

本邦では末梢神経再建における神経再生誘導材としてナーブブリッジ®、リナーブ®が適応となっている。今回、舌神経損傷に使用した2種の神経再生誘導材の治療成績の比較検討を行ったので報告する。

2-5 舌神経損傷における欠損距離は神経縫合術の予後に影響を受けるのか

○小原身知子（こはら みちこ）¹、西山明宏²、西村光正²、岩崎亮²、杉浦慧²、山本裕義²、田中斉¹、加藤禎彬²、有泉高晴¹、星野照秀²、片倉朗²、渡邊章¹

- 1) 東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座
- 2) 東京歯科大学 口腔病態外科学講座

2017年4月から2023年12月までに本学水道橋病院で神経端々縫合術を施行した14名の舌神経損傷患者の欠損距離と術後6か月、1年での評価を含めた臨床統計を行ったのでその概要を報告する。

2-6 歯科心身症に関連した口唇症状の5例

○宇津宮雅史（うつのみや まさふみ）^{1,2}、安彦善裕^{1,2}

- 1) 北海道医療大学病院「口腔内科相談外来」
- 2) 北海道医療大学歯学部 臨床口腔病理学分野

口唇に出現する症状の原因は、神経の損傷や障害以外に多岐にわたる。本発表では、歯科心身症およびその周辺疾患が原因と思われる口唇症状の5例について紹介する。

3-1 重複良性腫瘍（耳下腺多形腺腫と舌神経鞘腫）を同時に切除した1例

○薄木崇介（うすき たかすけ）、野添彬、石井庄一郎

公立学校共済組合 近畿中央病院 歯科口腔外科

神経鞘腫はSchwann細胞に由来する良性腫瘍で、口腔領域では舌に発生することが比較的多い。また耳下腺に生じる唾液腺腫瘍の中でも多形腺腫の頻度は多いが、舌神経鞘腫と同発した報告は渉猟し得なかった。今回我々は、耳下腺多形腺腫と舌神経鞘腫を同時に切除した経験について報告する。

3-2 Numb chin症候群を初発症状としたB細胞性ホジキンリンパ腫の1例

○有川千尋（ありかわ ちひろ）、田中徳昭、山田早織、松川誠、下岡拓矢、瀧井知恵、石濱孝二

大阪けいさつ病院 歯科口腔外科

84歳男性、下口唇の知覚異常を主訴に当科紹介受診。両側下口唇からオトガイ部皮膚にかえて知覚異常および知覚鈍麻が認められた。口腔内外所見に特記すべき異常は認められず、単純CT画像において下顎骨広範囲に硬化性変化が認められたものの腫瘍性病変を疑う所見は認められなかった。血液検査にてLDH 273U/l, sIL-2R 676U/mlと高値を認め造血器悪性腫瘍が疑われ当院血液内科へ紹介、B細胞性ホジキンリンパ腫の診断が得られた。

3-3 舌下神経麻痺および嚥下障害を契機に術後30年経過した甲状腺癌後発転移の診断に至った1例

○久保慧乃葉（くぼ えのは）、吉濱直哉、忽那重彦、今利一寿、高畑惣介、木附智子、藤永貴大、今城育美、大山順子、森山雅文

九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 口腔顎顔面外科学分野

72歳女性。左側舌の違和感と嚥下障害を主訴に当科初診となり、左側舌の萎縮と運動障害から左側舌下神経麻痺を疑った。各種検査所見より、30年前の甲状腺癌の術後上頸部リンパ節転移による舌下神経の圧迫に起因した舌運動障害と診断した。神経領域の観察と的確な診断の重要性が考えられた1例であった。

3-4 舌の局所味覚と全口腔法による味覚閾値との比較

○伊澤輝（いざわ ひかる）、西祐也、高橋文太郎、臼田真浩、小嶋忠之、川原一郎、高田訓

奥羽大学歯学部 口腔外科学講座

近年、味覚異常の訴えが増える傾向にあるが、濾紙ディスク法の試薬供給停止に伴い、基本4味覚の定量的評価が滞っている。そこで、舌前方の局所味覚と全口腔法の味覚検知閾値についてVASを用いて比較・検討したので報告する。

3-5 濾紙ディスク法にて味覚検査を行った患者の臨床統計

○熊谷順也（くまがい じゅんや）^{1,2}、小林明子¹、香月佑子^{1,3}、望月美江⁴、澤田真人⁵、山崎裕子⁶、和気創^{1,7}、依田哲也¹

- 1) 東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野
- 2) JCHO東京山手メディカルセンター 歯科・口腔外科
- 3) 美浦中央病院 歯科
- 4) ミエ歯科医院
- 5) 今池デンタルクリニック
- 6) ゆうデンタルクリニック
- 7) みどり小児歯科

味覚異常には様々な病態や原因が報告されている。また濾紙ディスク法、全口腔法による検査において有意な相関があると報告されている。そこで口腔外科外来(顎顔面外科学分野)を受診した133名を対象に、臨床症状および検査結果にどのような違いが出るのかを検討した。

3-6 電気味覚検査 (TR-06) とろ紙ディスク法(テーストディスク®)による検査結果の比較

○小林明子 (こばやし あきこ)¹、熊谷順也^{1,2}、香月佑子^{1,3}、望月美江⁴、澤田真人⁵、山崎裕子⁶、和気創^{1,7}、依田哲也¹

- 1) 東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野
- 2) JCHO東京山手メディカルセンター 歯科・口腔外科
- 3) 美浦中央病院 歯科
- 4) ミエ歯科医院
- 5) 今池デンタルクリニック
- 6) ゆうデンタルクリニック
- 7) みどり小児歯科

電気味覚検査 (TR-06) とろ紙ディスク法による検査では味覚発現機序が異なるものの有意な相関があると報告されている。そこで両法による検査を行った133名を対象にその結果を比較検討した。

3-7 マウス酸味細胞のGABAの役割について

○三上彩可 (みかみ あやか)^{1,2}、吉田竜介²、兵藤藍子^{2,4}、堀江謙吾²、美藤純弘²、天野克比古³、飯田征二³

- 1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔再建外科学分野
- 2) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔生理学分野
- 3) 国立大学法人岡山大学学術研究院医歯薬学域 顎口腔再建外科学分野
- 4) 岡山大学病院口腔外科 顎口腔再建外科部門

味覚の相互作用は摂食時に生じるが、そのメカニズムは不明な点が多い。本研究では、酸味と甘味の相互作用に着目し、酸味細胞でGABAを合成する酵素を欠失した遺伝子改変マウスの鼓索神経応答を記録した。その結果、酸味細胞から分泌されるGABAが甘味の応答を抑制することが示唆された。

協賛企業一覧

【企業展示】

帝人メディカルテクノロジー株式会社

日本ストライカー株式会社

ジャパंकオリティ株式会社

【寄付】

株式会社モリタ

【広告】

株式会社モリタ

オカダ医材株式会社

株式会社プロシード

ゲンゼメディカル

シーライヴ株式会社

小西医療器株式会社

富士フィルムメディカル株式会社

クインテッセンス出版株式会社